

第11期事業報告書

(2024年10月1日～2025年9月30日)

1. まとめ

高齢多死社会を迎え、看取りの場の課題が急浮上しています。従来の家族介護の限界は明らかで、特にがんの終末期や神経難病など、医療だけでなく介護のニーズも併せ持つ方々が増えて、そこにホスピス型住宅（主に医療保険の別表7の患者に限定して訪問看護が一日3回以上訪問）がホスピスという名称を使ったビジネスモデルとして全国に拡大してきています。

病や障碍など困難な条件下であっても、最期まで生ききることを支え、家族が悔いのないみとりができるように支える場を実践することは、ホームホスピスの基本理念です。単に場をつくるだけでなく、ケアの質を問い続けていくことが重要で、「ホームホスピスの基準」を現場で検証しながら運営するために活用します。これから確実に医療だけでなく介護を併せ持つ方々のニーズは増えてきますから、そのような方々が質の良い療養の場所で安心して暮らせる地域を準備していかなければと考えます。以下、課題と展望も含めて、今期の活動をまとめてみたいと思います。

◎「ホームホスピスの基準」はどのように生まれたのか、かあさんの家が開設されたのは2004年、こんな仕組みを私の地域にも作りたいとの志を同じくする人が集まって、2011年ホームホスピス推進委員会を発足しました。2013年に似て非なるものから守ろうとホームホスピス®を商標登録、すぐにホームホスピスのケアの基準作りに取り掛かりました。2年にわたって何度も話し合い、学びあいながら実践を通して得たことを文章に落とし込みました。単に枠組みを作るのではなく実践者が自己評価しながら作り上げたものです。2015年、初版「ホームホスピスの基準」を策定し、それから10年を経て自然災害やコロナ感染症のパンデミックにも見舞われ、リスクマネジメント、防災対策などを加筆して、今期2025年、「ホームホスピスの基準」～ケアと運営の手引き～2025が3回目の改訂版となります。この基準は、「ホームホスピスの学校」のテキストとして、また、レビューで第3者評価の土台となっています。

今期は、ベーシック評価をホームホスピス運営団体に実施しました。各団体が基準の内容を意識してもらい、自主的な改善につながることも目的としています。

◎「ホームホスピスの学校」を開設して9期生が修了し、これまでにまなぶコース106名、つくるコース78チームで181名です。修了された中から開設された法人が5か所、開設準備中が7か所になっています。特徴としてすでに訪問看護事業の実績があり、利用者を最後の看取りまでケアできたらとホームホスピス開設を希望される方々が増えています。今後学校を修了される方々が、まだホームホスピスのない地域にも広がっていくことを期待いたします。

◎日本財団『ホームホスピスにおける入居者へのケアの効果に関する調査』が3月から4月に実施され、8月公開されました。この調査は、ケアの質や満足度、身体的・精神的な健康状態、介護度等の変化の観点から分析を行い、主な内容としては、入居前と入居後の変化をアンケートにより抽出ご家族・ご遺族への調査では、多くの方が大切なご家族の心身の状態が維持・改善されたと実感されていること、全国のホームホスピスで現在働いているスタッフに向けてのホームホスピス勤務における満足度調査では、多くの方々が仕事にやりがいを感じている、勤務することに誇りに思っているという結果でした。

利用者の介護度が改善したり、入居前より体調が回復したりするなど、劇的な回復を見せるケースは、現場レベルでは、ホームホスピスのケアが有効であると実感されていました。一方で、その有用性を定量的に示す根拠は十分ではなく、エビデンスを示せずにはいました。この調査結果はホームホスピスを運営している会員の自信になり、励ましにもなりました。

① 評価と認定

評価レビューは「ホームホスピスの基準」に基づいて、自己評価と第3者評価をしながら検証し、日ごろの実践に活かしていくものです。コロナ禍以降、実際に現地に伺ってレビューする機会が少なくなり、オンライ

ンでの会議が普及したので、全会員にベーシック評価を実施し、オンラインにての評価を実施しました。また、学校の受講生が実習を行います。これまでの認定ホームホスピスだけでは、受け入れが十分に実施できないため、新たな実習先としてレビューを実施しました。また、レビューを受けるための費用（評価者の交通費）などが高いのでなかなか申し込みが伸びないことも課題でした。オンラインでの実施などで、費用も見直しの時期に来ています。

② 研修

第13回ホームホスピス全国合同研修会は、「生ききる」をささえるホームホスピス 市民が創り出すケアとして、神奈川県川崎市で開催しました。神奈川県には、魅力あるケアを実践している施設があります。シンポジウムは「市民が創り出すケア恋するようにケアを語ろう」というテーマで、語り合っていました。ケアの本質についてなど、意見交換も活発に行われました。

支部研修会は、ホームホスピスのない地域へホームホスピスを啓発することも重要だと、ホームホスピスの実践を啓発する研修の機会を地域で作っていくことを主目的に内容が検討されました。

西日本支部、東日本支部、九州支部、関東支部、それぞれの地域の実情に即しての研修会、また空白地である長野での講演会も開催することができました。

③ 人材育成：「ホームホスピスの学校」

2021年6月に開校したホームホスピスの学校は今期、第8期と第9期を開校しました。座学がオンラインで受講できるスタイルは、これまでホームホスピスを作りたいけれど、仕事を続けながらでは困難とあきらめていた方にとって朗報でした。また仕事の都合などによりライブで受講できなくても、アーカイブで動画が配信されるので、それを受講しレポートを提出し評価を受けるというのも、仕事をしながら受講する方にとっては受講しやすい形になっています。受講終了した方々の中から開設した方や、準備中の方々が誕生し、徐々に「ホームホスピスの学校」の成果が上がってきています。

今期2024年の第8期は、「つくるコース」は9チームで23名、「まなぶコース」6名、「ホームホスピスコース」3名の受講、2025年の第9期は、「つくるコース」は9チームで23名、「まなぶコース」11名、「ホームホスピスコース」5名の受講でした。「つくるコース」には、ホームホスピスのない地域の神奈川県、山口県、福井県などから受講生がエントリーされ、その地域に広がっていけばと期待されます。また、ホームホスピスで働いている方向けの「ホームホスピスコース」では、新人研修や学び直し場として活用されています。

また、ホームホスピスの学校を紹介する動画を制作し、YouTubeでも配信し始めました。

④ 開設及び拠点整備

開設までの道のりには、法人設立から、物件探し、地域での掘り起し活動など、多くのハードルがあります。また、助成金の申請などのアドバイスなど、多くの相談電話やメールが協会に寄せられています。物件が見つければ、必要に応じて理事が実際に足を運び、家の間取りなどでは、山口健太郎理事にアドバイスをもらいました。また、現時点で開設に向けて改修工事を進めているところが、沖縄県宜野湾市、高知県高知市、岡山県真備町、北海道札幌市、京都府京都市、物件を決めて資金計画などの準備に取り掛かっている所が、新潟県新潟市、京都府京都市、鳥根県出雲市、東京都青梅市など合わせて9地域で準備中です。

◎ ホームホスピスが新たに誕生

今期は、1軒のホームホスピスが誕生しました。2024年11月に東京都大田区に「ホームホスピス縁」が「メットライフ財団×日本財団 高齢者の豊かな居場所プログラム」の助成金で開設されました。

開所式には、財団関係者をはじめ、東京都議会議員、大田区長、など、近隣住民の方々など、多くの方々が参加され、また新聞テレビなどのメディアの方々の取材がありました。新聞に掲載され、地域の信頼も含めてホ

ームホスピスの船出に多くの期待が感じられました。

⑤ 運営にかかわる相談

協会事務局には、全国のホームホスピスからの相談電話やメールがきます。新たに2軒目開設したいのだから、介護職の人材が足りずやむなく夜勤を続けている、BCPの作成はどうしたらよいか、事業継承について等々です。必要があれば、オンラインミーティングや出向いて話を聞き、課題を見つけてどうすればいいのかを一緒に考えます。また、自宅での介護困難や終末期に過ごす場所として、全国にあるホームホスピスを紹介してくださいというご相談も増えています。そんな時に、どの県にも、どの地域にもホームホスピスがあったらなと思います。

⑥ 運営

2015年に全国ホームホスピス協会を設立し、運営にかかる費用は日本財団の公益・福祉の助成金を受けてきました。その助成も今期は10年目となり、協会の自立に向けての第3フェーズ(3か年)に入ってきました。協会活動を支える資金の柱は、会員を増やし会費を増やすことですが、その為にはホームホスピスが増えることが必要です。各都道府県に1か所以上のホームホスピスを開設し、地域における在宅看取りを普及するための拠点となることを目指しています。現段階でホームホスピスが運営されているのは21都府県ですが、開設準備中の沖縄県、島根県、高知県、岡山県、新潟県、京都府、北海道を加えると28都道府県になります。

また、ホームホスピス支援基金を創設する方法を探っていますが、中間支援団体が寄付などで基金を創設した事例が少なく、資金調達支援企業などからの情報を収集している段階です。

2. 実施事業

(1) 評価と認定

レビュー(認定審査)の実施

- ・新規レビュー
風の葉 認定
- ・5年更新レビュー

*評価審査委員：高橋紘士、市原美穂、松本京子、竹熊千晶、金居久美子、岡本峰子、山口健太郎

ベーシック評価

今年の4月に「ホームホスピスの基準」の2回目の改訂版を発行しました。この機に改めて全国のホームホスピスがこの基準に則したケアや運営が行われているかということをご自己評価していただくための「ベーシック評価」実施しています。これは前期の末(2025年9月)に会員の皆様に評価票記入のお願いをしているもので、この評価内容を基に認定ホームホスピスの審査やホームホスピスの学校の実習生受け入れについても打診をさせていただきたいと思っています。

(2) 研修会の実施

① 全国合同研修会の開催

第13回ホームホスピス全国合同研修会

「生ききる」をささえるホームホスピス 市民が創り出すケア



期日：2024年11月3日

会場：川崎市コンベンションホール（神奈川県川崎市・オンライン配信

参加者数：会場83名、オンライン67名

内容：

- ・「生ききる」をささえるホームホスピス 市原美穂・松本京子
- ・「これからのケアのあり方を考える」 迫井正深（厚生労働省医務技監）
- ・シンポジウム「市民が創り出すケア恋するようにケアを語ろう」
コーディネーター 小川泰子（いきいき福祉会理事長）
シンポジスト 菅原健介（ぐるんとびー代表）高本征子（シェアハウスかのん代表）
富田真紀子（なかの里を紡ぐ会理事長）

【参加者感想】

- ・ホームホスピスがつながりをいかに大切にしているか、本人のできるを大切にしているか理解できたシンポジウムでの意見交換が活発で楽しかった。
- ・その人らしく過ごせるように考える、当たり前のことを真剣に取り組んでいる活動に感動。自分の原点（どうして看護師になったのか、緩和ケアをしたいと思ったのか、HHを作りたいと思ったのか）を思い出した。
- ・ホームホスピスをはじめて知った。知人ががんを患い、これからの住まいのことなど悩んでいたもので、伝えたい。
- ・本人に合わせられる、本人にやさしいHHなんだと思った。施設にいる母もHHに入居できたらいいなと思う。
- ・年1回はもったいない。今後HHは必ず広がっていくと思うので、国や地方に積極的にかかわってもらいたい。
- ・迫井さんが参加された事は大きかったと思う。個人での立場でお話しされたと理解した上で、行政と繋がってホームホスピスの理念を理解していただく機会を作る事は大事だと思った。
- ・会場参加はいいなと感じた。基本を押さえながら、はみ出し応用していく…道筋を聞いた気がする。
- ・ホームホスピスの現状と課題がはっきりと参加された皆さんと共有でき、有意義時間を過ごすことが出来た時間（大会）だった。
- ・ホームホスピスは「在宅」という立場でありながらも社会に「認知」され、利用者を集わなければ経営が成り立たない可能性があるという難しい立ち位置にあると強く感じていますが、「その人（ひと）」を「その人の生活」を「その人の生き方を」大事に感じてくださるスタッフや一緒に暮らしている方々のパワーに感動。



第14回ホームホスピス全国大会 in 神戸の企画

会場打ち合わせ 2025年8月20日

② 各支部活動

《研修会》

- ・ 西日本支部研修会

「ご飯が食べられなくなったらどうしますか」

期 日：2025年1月26日

会 場：グランキューブ大阪

参加者：会場 93名 オンライン 20名

内 容：ホーム Hospice で働くスタッフが支える「食べること」についてみんなで考えよう

ホーム Hospice とは 松本京子（協会副理事）

ホーム Hospice からの事例発表

あなたならどうする？（寸劇）

講演…高齢者の食と意思決定支援 花戸貴司（東近江市永源寺診療所）



- ・ 東日本支部研修会

「地域とあゆむホーム Hospice」

期 日：2025年3月15日

会 場：コラッセふくしま

参加者数：会場 60名 オンライン 10名

内 容：ホーム Hospice とは 市原美穂（協会理事長）

ホーム Hospice からの報告（栃木かあさんの家）

講演…医療機関から見た地域連携 大堀美紀（大原総合病院）

福島市民の療養場所～よい人生を送るために～ 橋本孝太郎（ふくしま在宅緩和ケアクリニック）



- ・ 九州支部研修会

「今、話しておこう！お父さん、お母さん、どう生きていきたいですか」



期 日：2025年8月2日

会 場：久留米シティプラザ（福岡県久留米市）

参加者数：会場 87名

内 容：ホームホスピスとは 市原美穂（協会理事長）

終末期医療における医師として大事にしていること 原口 勝（みどりの杜病院）

猪狩 洋介（内藤病院）

ホームホスピスからの報告“私たちが守りたいこと” あいのさと・しずく・たんがくの家



《他団体との連携事業等》

・ 関東支部

「福祉カフェ いつもの暮らしを終わりまで～ホームホスピスの取り組みから～」

期 日：2024年10月16日

主 催：あがっぺひたち（茨城県）

会 場：茨城キリスト学園キアラ館アリーナ

講 師：市原美穂（協会理事長） 清水里香（清水の里）

「地域で看取るいのち」

期 日：2025年5月18日

主 催：上田・生と死を考える会（長野県）

会 場：千曲荘病院西棟地域交流センター

講 師：市原美穂（協会理事長）



・ 九州支部

「カフェむゆうげん…私らしい暮らし 一日一日を大切に生きていく」

期 日：2024年11月17日

主 催：NPO 法人むゆうげん

会 場：コミュニティセンター採 do 所

講 師：市原美穂（協会理事長）

（3）人材育成

① ホームホスピスの学校

ホームホスピスを始めたい人、またホームホスピスのことを学びたい人の為に、2つのコースを用意しました。「つくる」コースは、ホームホスピスの理念やケアの哲学および運営や管理についての座学と20日間の現場実習で構成されます。また「まなぶ」コースは、理念や運営などの座学は「つくる」コースと共有し、現場実習を数日間としました。

ホームホスピスで働く方向けの「ホームホスピスコース」では、新人研修や学び直し場として活用されています。

- ・8期生 つくるコース9組23名 まなぶコース7名 ホームホスピスコース2名
2024年9月28日開校式
9月28日～10月15日 座学①・オンラインミーティング
10月17日 つくる準備講座
10月21～24日 つくるコース オンライン面接
11月7日～12月5日 つくるコース 座学②
12月～ 実習・事務研修



- ・9期生 つくるコース10組25名 まなぶコース11名 ホームホスピスコース5名
2025年6月7日開校式
6月7日～6月19日 座学①・オンラインミーティング
6月24日 つくる準備講座
6月24～26日 つくるコース オンライン面接
7月1～29日 つくるコース 座学②
8月～ 実習・事務研修



《実習先評価》

8/20 風の葉 8/21 みぎわ 9/17 セ・ラ・ヴィ！



- ・スタッフ雇用・育成支援
ホームホスピスの学校ホームホスピスコースの活用

(4) 開設と拠点整備

① 開設前視察・相談

現地視察、メール、電話、オンラインによる相談を実施

相談内容：開設、運営、物件選定、改築設計、助成金、改築設計相談、
団体設立のための広報活動相談 など



《現地視察》

2024年

10月14日 ばらのおうち 開設相談、物件視察（北海道札幌市）

2025年

2月19日 妖精さんのたねまき 開設相談、物件視察（京都府京都市）

2月19日 そーる 開設相談（岡山県倉敷市）

2月20日・3月25日 アズイット出雲 開設相談、物件視察（島根県出雲市）

5月16日 ホームホスピスの学校修了生開設準備相談（長野県上田市）

6月28日 あいのさと 開設1周年記念講演会（福岡県八女郡広川町）

7月4日 和ははの家 開設後運営相談（兵庫県小野市）

7月12日 みのでの家 開設記念講演会（高知県高知市）

7月12日、9月18日 縁 開設後運営相談（東京都大田区）

7月13日 マイレの家 開設後運営相談（福岡県糸島市）

8月21日 にぎわいハウス 開設運営相談（奈良県）



《電話・オンライン相談》



北海道、新潟県、岡山県、沖縄県、京都府、和歌山県 など

◎新規開設

2024年11月 ホームホスピス縁（東京都大田区）



(5) 運営にかかわる相談・基盤づくり

① 既存ホームホスピスに対する運営や事務、経理等のアドバイス
地域との関係づくり

《相談支援訪問・ヒアリング》

2025年

5月8、16日 あこや（三重県）

7月4、30日 咲愛（兵庫県）

7月4日 ひなたの家（兵庫県）

7月13日 ちえろっと（福岡県）

7月30日 おはな（兵庫県）

8月3日 たんがくの家（福岡県）

8月20日 ふさの家（大阪府）

9月18日 は一との家（東京都）



《電話・メール等による相談》

主な内容：新規開設、閉鎖、継承、助成金申請、運営、広報、など

《休止・閉鎖・退会》

休止：ホームホスピスいせ あこや（三重県）2025年7月より休止

閉鎖：ホームホスピス樅（東京都）2025年3月に法人解散

退会：ホームピアむつみあい・はなのあい（東京都）2025年9月に退会

② 実践者スキルアップ研修

- ・「HHの学校」のコンテンツ活用やオンラインミーティングによる意見交換会の開催などを実施
- ・労務管理などの会員向けオンラインセミナーの開催

2025年

2月25日 「最新の労務管理実践セミナー」 高浪賢一（高浪社会保険労務士事務所）

8月25日 「非営利型法人運営必須ポイント」 黒岩雄二（協会事務局長）

③ 運営者会議

なし

④ 緊急支援

緊急支援については、今期は特になかった。

（6）調査研究と普及

①ホームホスピスに関する講演、他団体研修参加

2024年

10月12日 死の臨床研究会（北海道）

11月23日 在宅医療フォーラム（東京都）

2025年

1月13日 われもこうヘルパーステーション（熊本県）

5月8日～11日 台湾在宅医療学会（台湾）

6月14-15日 日本在宅医療連合学会（長崎県）

7月4, 5日 日本緩和医療学会学術大会（福岡県）

7月5日 ホームホスピスひなたの家10周年記念事業（兵庫県）

7月27日 在宅ケアサミット2025（東京都）

8月28日 医療福祉建築フォーラム（東京都）

② 基金の設立に関する調査

- ・READYFOR・Syncable とオンラインミーティング)

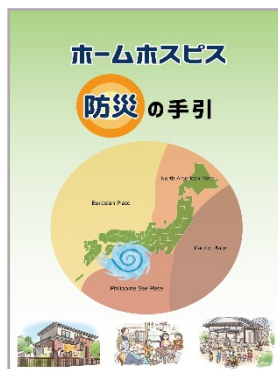
- ・2025年1月18日 ファンドレイジングジャパン2025

7月12日 まちづくりNPO交流会&成果報告会

- ・ホームホスピスの基準の改訂

2015年に策定された「ホームホスピスの基準」の2回目の改定を行いました。今回の改訂では、暮ら

しや個別ケアの表記の一部見直し、安全管理についてBCPの記述などの追加、人材育成に「ホームホスピスの学校」を追加。また協会による開設支援などについての取り組みを追加しました。



・ホームホスピス防災の手引き

介護業界、障害福祉業界のBCP策定義務化（2024年4月～）を踏まえて、自然災害に関する防災の手引きを作成し、防火対策に関して「ホームホスピス防火ガイドライン」のスプリンクラーに関する記述を見直して後半に収めました。5月に基準と合わせて会員向けに配布。

③ その他

- ・ホームホスピスについての新聞掲載記事等の収集、管理
- ・ホームホスピスの実態調査

(6) インフォメーション

① 定時社員総会

日時：2024年11月27日（水）15：00～16：00

於：ホームホスピス宮崎・WEB

決議事項：

第1号議案 第10期(2023年10月1日～2024年9月30日期)

事業報告書承認の件

第2号議案 第10期(2023年10月1日～2024年9月30日期)

決算報告書承認および監査報告の件

第3号議案 第11期役員選出

報告事項：第11期(2024年10月1日～2025年9月30日期)事業計画及び予算



② 理事会の開催

第1回理事会 2024年10月25日 場所：オンライン

議事：協議事項のみ

- ① 12期の全国大会会場について
- ② 全国大会 in 神奈川（11/3）の役割分担について
- ③ 定時総会の日程について
- ④ 「ホームホスピスの基準」の改訂について
- ⑤ 役員改選について
- ⑥ 旅費規程の見直しについて

- ⑦ 今後のレビューについて

第2回理事会 2024年11月27日 場所：オンライン

議事：協議事項のみ

- ① 総会議案書について
- ② ホームホスピスの学校実習先の追加について

第3回理事会 2024年11月27日 場所：オンライン

議事：協議事項のみ

- ① 理事長、副理事長の互選について（定款第19条2項）

第4回理事会 2025年3月9日 場所：オンライン

議事：協議事項のみ

- ① 実践者育成塾の見直しについて
- ② 育成塾の見直しに伴う全国大会、支部研修会の位置付けの見直しについて
- ③ ホームホスピスの基準の改訂版発行について
- ④ 会費の引き落とし方法の見直しについて

第5回理事会 2025年12月6日 場所：オンライン

議事：協議事項のみ

- ① 第14回ホームホスピス全国大会 in 神戸について
- ② 支部研修会について
- ③ レビューについて

第6回理事会 2025年6月20日 場所：オンライン

議事：協議事項のみ

- ① 第14回ホームホスピス全国大会 in 神戸について
- ② レビューについて
- ③ スキルアップ講座について

第7回理事会 2025年7月16日 場所：オンライン

議事：協議事項のみ

- ① 第14回ホームホスピス全国大会 in 神戸について
- ② ベーシック評価（学校実習先評価）について
- ③ スキルアップ講座について

第8回理事会 2025年8月26日 場所：オンライン

議事：協議事項のみ

- ① ホームホスピスの学校の実習先の追加について（特に関東方面）

- ② 全ホームホスピスについてベーシック評価の実施
- ③ 再レビュー、更新レビューについて
- ④ 会費未納の会員の取り扱いについて
- ⑤ 全国大会の参加費について
- ⑥ 全国大会の会員研修会（2日目）の詳細について
- ⑦ その他

第9回理事会 2025年9月26日 場所：オンライン

議事：協議事項のみ

- ① 全国大会の準備状況について
- ② 第12期 事業計画および予算について
- ③ その他



◎ 事務局体制

事務局長：黒岩雄二 事務局：岡田瑞穂、岡田直樹、岩切知峰

理事会記録：古野たづ子

事務局も今期で10年目となりました。事務局の業務としては、会員名簿の管理、理事会の運営、相談対応、情報発信、研修の企画・運営、会費の管理、ホームホスピスの学校の運営、日本財団への助成金申請サポートなど多岐にわたっています。ホームホスピスの学校は4年目となり、「つくる」コースの受講者も各回申し込み上限の10チームが受講するようになってきました。事務局もそれぞれの開設に向けてのサポート業務が益々多くなってきました。また、協会事務局にも各地の方々から電話やホームページ経由でホームホスピス利用についてのお問い合わせがあることから、ホームページ上で会員の皆様の情報を発信するページを設けました。その情報提供も含めて、会員の皆様には様々なアンケートや自己評価票の記入などをお願いしてきました。

また、研修会や各種の会議は、そのほとんどが会場とオンラインを併用した参加者と会場をつなぐハイブリッドでの開催となり定着してきました。事務局は、会場運営とオンラインのホストとしての役割も担っています。

また、当協会は、日本財団の支援をいただいて運営していますが、事務局は、日本財団との協議や連絡窓口も担っており、ホームホスピス開設のための助成プログラムや寄付金による支援プログラムなどの情報も共有させていただいております。

体制としては、主に経理を担っていた岩切が11期で退職となりました。

◎ 広報活動

- ・ニュースレターたんぽぽ 10号の発行
- ・ホームホスピス協会パンフレット制作、配布
- ・YouTube 公式チャンネル 5月運用開始
- ・ホームページ（担当：黒岩雄二・岡田直樹）
- ・Facebook（担当：岡本峰子・黒岩雄二）
- ・Instagram(担当：岡田瑞穂)

